



## 第22回グラフィックアート『ひとつぼ展』出品者



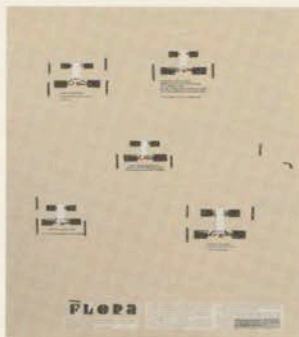
ASADA Asada

1971年生まれ。東京造形大学彫刻科卒業。アーティスト  
「変身! 自分戦隊ASADA! 先ずは自分が強くなって、そして…」  
現代社会! 問題は現在……こんなグローバルな社会になったって  
とりあえずは自分の現状が一番問題! ですよね? と思い先ずは  
それから解消すべく自宅で一人戦ってみました。



飯田竜太 Ryuta Iida

1981年生まれ。日本大学芸術学部美術学科彫刻コース4年  
「目に見える、見えない」  
多様な情報媒体がある現代、文字はその複雑にあるように感じる。  
本が持つ、身体的行動を誘発する要素を、本を2等分し、フラットに  
平面化、無化する事で、それ自身が新しい情報を持つ。そこに  
何が見えるのか。何かを感じとってもらえるといい。



栗原甲吉 Koukichi Kurihara

1979年生まれ。東京芸術大学大学院デザイン科修士課程  
「LYRIC OF COSMOS」  
形のあるもの、形のないもの、それを問わず秩序COSMOSの中  
にある本質的な美を、絵と言葉、という形で存在させる事、を展示  
の明確なコンセプトとしています。



高松徳男 Norio Takamatsu

1978年生まれ。帝塚山大学卒業。インターメディアム研究所写真  
コース修了。スタジオ勤務  
「ゆるるグラフィックイラスト集」  
自分自身まだまだはじめたばかりなので、テーマといったものは  
見えていないが、荒木写真のようにイラスト、グラフィックでも、  
そういった私的というか、エロスとか理論とかをつきつめていけ  
たらと思います。



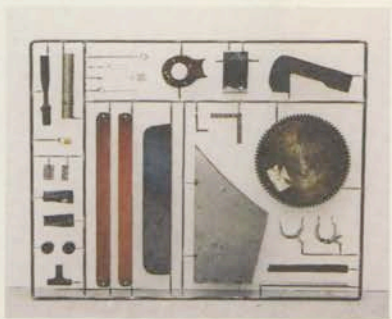
原田俊二 Syunji Harada

1979年生まれ。セツ・モードセミナー研究所  
「それぞれに石膏像のある部屋」  
音の無い、静かで広い空間は、素敵に思う。そんな空間の部屋に  
住みたいとかじゃないけど、美術としてみたい、そんな感じで  
描いてみました。



樋口佳絵 Kae Higuchi

1975年生まれ。東北生活文化大学卒業。フリー  
「耳を塞いでみる」  
耳を塞いで、思い浮かぶ記憶の様なことを描いています。  
曖昧にちってゆく記憶を手繰る作業はどこかどこかしい気分を  
もたらしませんが、それはちょっと大事な事なんではないかと漠然と  
思うのです。



藤岡良枝 Yoshie Fujioka

1972年生まれ  
「Metal Sculpture Kit」  
いかにして既製品や単なる「モノ」が「アート作品」になるのか。  
モデル・キットという未完成(非完成)な状態のモノを通してアート  
作品の属性やその「完成」のあり方を考える。



ふじめゆきよ Yukiyo Fujime

1979年生まれ。京都造形芸術大学大学院修士課程  
「黄金の図鑑」  
ほんとうは何がいちばん大切なのか、どこを見ているのかよく  
わからないけれど、とりあえず動機は不純です。



本瀬研太 Genta Honnoh

1978年生まれ。パンタンデザイン研究所卒業。アルバイト  
「動物箱」  
動物達それぞれの様々な格好、しぐさ、表情。どの動物も生きて  
いる。それは素晴らしい。養ってあげたい。そんな養ってあげたい  
動物達をオブジェにして箱に詰めました。



矢野大二郎 Daijiro Yano

1983年生まれ。日本デザイナー学院卒業。JAふえふき第一供選  
場バックセンター勤務  
「昏睡の世界」  
夜明け前 僕が見た月は輝きを弱めていた 人間は地球の美しさも  
宇宙も いつの日か人間もすべて身近にして汚して前へ進んで  
もう戻れなくなってしまう